

わんぱく学園ニュース

平成18年 3月号 No122

夢見月—— ふっくらほっこり、桃の花が咲く頃となりましたね。もう、そこまで春が……。冬、水かさが減ったりかれたり凍ったりしていた川も、春雨(はるめ)や雪解け水などでよみがえり水ぬるむ春の川と。また岸にはネコヤナギの芽が膨らみ、日もうらうらと水面(みづ)に映える～そんな情景は私が幼き頃にはあちこちで見られたものです。そして小学校で習った「春の小川」を口ずさみながら、友だちとのんびり自然と戯れながら帰路についたものです。大正元年につくられた童謡「春の小川」の歌詞にもあるように、スマレやレンゲの野花やタニシやめだかの群れ等にも育ててもらった頃を、今とても懐かしく思うのは私だけでしょうか？。

「ひと窯を、子のため守る、春の声」～アトリエ「おちらと」に窯を懸…垣

さて、1・2月に楽しんだ『学園』の遊びの一部を紹介いたします。

★こんにゃく屋さんになったよ！

日々口にしている食べ物ができ上がるその過程を知り、自分たちで作りその喜びを感じてほしいという願いのもと、1月22日アトリエ「おちらと」で昨年に引き続き、こんにゃく作りの親子体験をしました。4年もの(産20cm・重2kg)3年もの(14~15cm)20個余りのこんにゃく芋は、学園のスタッフ福田稔先生が自宅栽培された貴重なものでした。芋をよく洗う→包丁で皮を取り除く→細く切る(スライス)→蒸す→すりつぶす→炭酸ナトリウムと混ぜ合わす→手で丸める→ゆでるといった工程を経、プリプリのこんにゃくが出来上がりました。

2度目の今回は、蒸すのは「いぐみをなくすため」、「固めるため」炭酸ナトリウムと混ぜることも、ちゃんと覚えていた子ども達でした。包丁で切ったり、すり鉢が動かないようにと支えたり、すりこぎで懸命に擦ることで手がだるくなることを知ったり、自分らの手で手間ひまをかけて作ったものの美味しさを味わうことが出来たひとときでも

あったように思います。

早く手軽に出来、旬とか季節感が失われつつあるこの時代…何だかとても大切なことを学んだ私たちでした。

ふと思うこと…

～『食育の大切さ』～

私たちにとり、暮らし全体の最も基礎的なものとして食生活がありますね。その食生活は、今多くの問題点をかかえているように思います。親や子どもが一人で食べるという『個食化』も、そのひとつ。休日に家族と一緒に食事するのは、外食の時。唯一のコミュニケーションの場と思いきや、携帯電話が出はじめた昨今一緒に外で食事をしているものの、親も子も携帯メールをしているといった異様とさえ思える姿を見ることも…。食生活も私たち民族・地域の文化であり、円満な人格形成につながっているはずなのに……。

◆3月の「わんぱく学園」のメニューは下記の通りです。

3月 5日	紙ひこうき作って飛ばそう～(担当:福田稔 斲;アトリエおちらと) ポップコーンも 作るんだよ! 楽しみっ!! フライパンとワケロコの実さえあれば簡単よ!(学園で準備)
12日	お菓子やさんになろう! (担当:原穂・山口穂 斲;平小) イチゴ大福作って 食べようね? 材料費200円準備して来てね 参加希望は4日前 平小 原まで(☎63-5222)
19日	スケートあそびしよう?(担当:植野良樹 斲;土江和世 斲;湖遊館) 後で湖遊館周辺で合併ナベして食べよう! 鍋に入れる物がお家にあったら持って来てね 滑走料・靴代として一応1000円準備して来てね
26日	粘土コネ あ～そぼ!(担当:安食ひばり 斲;アトリエおちらと) お茶処「おちらと」で、ひろ校長のおもっせ話

集合時間 9時30分 ↓ 集合場所 光人塾前又は直接行ってね
《学園の問い合わせ 土江09077745913》 [文責 土江 和世]